



第3回市民公開講座のお知らせ

日時:令和6年2月3日(土)10:00~11:30

場所:辻堂公民館 3階ホール

テーマ:自分らしい最期を迎えるために
考えておきたいこと

~人生会議って何?~

講師:湘南ホスピタル
奥野 滋子 医師



第19回 在宅医療推進フォーラム 勇美記念財団

在宅医療支援センタースタッフ3名が参加しました。

日時 11/23 (木) 10:00 ~17:00

場所 東京ビックサイト 国際展示場

テーマ どうなる、どうする在宅医療
~近未来の地域づくり~



特別講演は、前厚生労働省医政局長から「医療提供体制に係る改革の動向」について、基調講演は、産業医科大学医学部教授によるデータ分析に基づく「ネットワーク化が医療を変える」と開業医師による「新米総合診療医のまちづくり見聞録」の他、今回のテーマに対するシンポジウムがあった。

6名のシンポジストのうち、「都市部の在宅医療~効率化では解決できない地域の役割」として川崎市の多摩ファミリークリニックの大橋医師の話は、藤沢市でも該当する内容で興味深かった。その他、地域で支える医療的ケア児~小児診療所の取り組み~、ホームホスピスからの報告、看護小規模多機能を中心にした世代を地域で支える取り組み等の発表があった。

団塊の世代が75才以上となる2025年まであと少しとなった。フォーラム全体を通して、年を取ってもできるだけ元気に住み慣れた地域で最期まで住み続けることができるよう、ACPや質の高い看取りを提供する在宅医療は重要であり、医師・歯科医師・薬剤師・看護職・リハビリ関係職・栄養職・介護職・ケアマネジャーなどの連携が大切であること、コロナ禍で生じた様々な問題後、急性期治療後の速やかな在宅医療への移行への仕組みづくりやICT等を活用した訪問診療体制整備が今後も重要となることが伝わった。

日本各地域(14都道府県)のブロックで行うフォーラムが開催されているが、それぞれ地域の置かれた環境で地区の特性を生かした取り組みをされていた。

行政の旗振りの大切さや、各職種で課題シェアしながら地域の個性を生かした取り組みが大切である他、病院と地域の診療所との連携、市民への知識の普及、情報の共有など多くの課題があり、盛りだくさんの内容だったが、多くの熱心な取り組みを行っている人たちに支えられて在宅医療が推進されていることを感じた。



藤沢市居宅介護支援事業所連絡協議会

Fuji ケアセンター 中村操

平成14年4月の介護保険制度のスタートと共に職務に必要な情報の収集と提供、資質向上の為に藤沢市居宅介護支援事業所連絡協議会は発足しました。

現在、在宅・施設・包括合わせて116事業所、合計344名のケアマネジャーに会員登録をいただいております。

今年度は、幹事(11名)・ケアマネリーダー(8名)で藤沢市と連携をし、介護保険事業、資質向上研修の企画やケアマネサロン(相談会)、藤沢市の多種委員会への参加や神奈川県ケアマネ協会の協力団体、また地域活動に参加する等活動しています。

藤沢市は南北に広がる土地柄、地域課題の違いが大きく、利用者様一人一人が抱える問題も多様です。そのようなご利用者様をケアマネジャーだけでは支援できません。

医療、障がい、行政、民間事業など職種を超えた連携、地域との支えあい、いわゆる「顔の見える関係づくり」が大切と考えています。

令和2年に始まったコロナ感染による活動制限があるなか、どのような取り組みができるか幹事で熱い協議を続け、Zoomの活用、また令和5年5月には念願の協議会のホームページを立ち上げさせていただきました。ホームページが有意義なものになり、ケアマネジャー同士のつながりが増え、情報提供や研修案内など多職種連携が図れることで、藤沢市のご利用者様により良いケアマネジメントが提供できるよう活動していきたく思っております。



*第21回神奈川県介護支援専門員研究大会が本年度は藤沢市で開催される事となりました。

(藤沢市居宅介護支援事業所連絡協議会共催)

テーマ【支えあう地域の力】

~共にささえ つながる手と手~

*基調講演:改めて考えるケアマネの仕事

講師 早稲田大学 野口晴子教授

*パネルディスカッション:地域で支えあう土壌づくり

~つながる支援の輪~

*研究発表(藤沢市内事業所 他)

日時:令和6年2月17日(土)

午前10時~午後16時30分

会場:藤沢市民会館

*詳細はホームページをご覧ください

<https://fujisawa-cm.com/>

